

インターバンクの声（2014 年 11 月 13 日）

最近は個人投資家の方々の間でも、ユーロや豪ドルの取引が活発になっているが、さすがに英ポンドの取引となるとまだまだと言ったところだろうか。そうした背景もあり、なかなかドル円、ユーロ、豪ドルの相場を追うように英ポンドを常に追い掛けるのは難しいが、夏以降の英ポンドの動きを改めて振り返ってみると相当激しいのだ。7月に今年と言うよりも6年ぶりに近い高値となる1.72ドルを付けた後、昨日の1.57ドル台まで下落し続けているのだ。昨夜の欧米時間の150ポイント以上の値下がりには、イングランド銀行（英中央銀行）の四半期インフレ報告が国内のインフレ率が向こう半年で1%以下になることを報じたためだ。来年夏前後と見られていた利上げ時期の予想がかなり後ずれしてしまった。7月には英国の堅調な景気回復やイングランド銀行のタカ派シフトなどによる対ドル金利差の拡大が英ポンドを押し上げていたわけだが、最大のリスク要因とされていたインフレ率の低下が現実になってしまった。ドルのもう一段の円安を狙うよりも英ポンドの下げ狙いが確実かも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。